

平成27年度 学校評価報告書

[達成値] A:十分満足である B:ほぼ満足できる C:改善が必要である

益田翔陽高等学校

重点目標	分掌	重点目標	具体的取組事項	評価指標(到達したい状況・状態)	達成値	自己評価(反省及び次年度への課題等)	学校関係者評価
人を敬愛する生徒の育成	保健相談	教育相談活動の充実	特別支援教育の推進(実態把握、情報提供、外部機関との連携、校内体制の充実)	情報提供が生徒理解に役立ったと答えた教職員の割合	A 93.6%	特別支援教育に関して多様な生徒の実態に即した研修を実施し、適宜情報発信も行った。教員個々の意識向上に努めたい。	A ○特別支援教育について、生徒の実態把握や校内の研修会がおこなわれるなど体制が充実してきている。今後も継続して取り組んで欲しい。 ○人権同和教育について、研究指定校2年間の成果を来年度以降も生かして実践して欲しい。
	図書研修	人権・同和教育HRの推進	生徒の成長段階やクラスの色に応じた指導案作成と研究授業を推進する。	人権感覚が身についたと答えた生徒と教職員の割合	A 95.7%	同和教育研究指定校終了後も、職員研修や研究授業の改善を図り、学年検討会や研究授業の活性化を継続させる。	
自律する生徒の育成	生徒指導	規律ある生活態度を確立させる	定期的に頭髪・服装検査を実施し、事後指導を徹底する。 全教員での指導体制を充実させ日頃の指導を徹底して行う。	頭髪・服装規定を守っていると答えた生徒・保護者と、日頃の指導が徹底できたと答えた教員の割合	C 86.8%	生徒や保護者の評価は更に高くなっており、生徒間での意識の高まりをより一層促していきたい。また、小さな乱れも見逃さずに指導していくように全教員で取り組む意識づけ・体制づくりをしていきたい。	B ○服装や頭髪の規程違反の生徒について、昨年度より増えてきている印象である。引き続き全教員での指導体制を充実させて欲しい。 ○挨拶について、翔陽高校は全体として伝統的によくできていると思う。一年生については、ややできていないと思われるので継続的に指導して欲しい。 ○学校周辺の環境整備はきれいになされている。
		校外外で積極的に挨拶させる	生徒会、風紀委員会を中心に、日頃から積極的に挨拶を交わす。PTAと協力し、各学期にあいさつ運動を行う。	日頃から、学校内・外で、あいさつができていると答えた生徒の割合	C 91.4%	1年生へのあいさつ指導・声掛けが徹底できなかった。学年部との連携ももちろんだが、生徒会や風紀委員会などの生徒による活動をもっと活発にさせ、教員も含めた学校全体の雰囲気づくりを再度行っていきたい。	
	保健相談	美化活動の推進	保健委員等による定期的美化活動の実施	清掃環境が整い、校舎内外が清潔に保たれていたと答えた生徒・教職員の割合	B 79.0%	校舎改修も進み、施設面の向上が図られ、個々の清潔感の基準も上がり、それに見合った環境整備が望まれる	
学力向上に努力する生徒の育成	教務	授業力の向上と基礎学力の育成	ICTを活用し、授業改善を図る。	ICTを活用した授業を実施した、授業を参観したと答えた教員の割合。	B 83.8%	毎月公開授業日を設定し、学期に1回の授業見学と授業見学シートの提出を義務づけた。数値は、授業見学シートの提出と、見学された授業を行った先生の数値である。今年度は、普通の授業でICTを使ってみて、効果的な使い方を模索していくことが目的であったが、参観者が多かった授業は、教科や研修など研究授業として公開されているものであった。授業者が負担とならないような授業見学とともに、研究授業等の情報を他学科、他教科の先生にも提供し、自身の授業改善につなげていただけるよう提案したい。	B ○ICT活用のメリットを生徒への教育効果だけでなく教員にも感じられるようにお願いしたい。 ○ICT機器の効果が最大限出せるように環境整備も引き続きとりこんでいただきたい。 ○専門高校での資格取得は重要であるので、指導体制を整備して生徒に有用な資格を在学中に取得できるよう引き続き努力していただきたい。
			学習の遅れがちな生徒の指導を推進する。	学校は個別指導や補習を十分に行った、と答えた生徒の割合。	B 74.9%	学習の遅れがちな生徒については、放課後学習会等を活用して補習や個別指導を行った。今後も継続していきたい。放課後学習会については、自学自習のスタイルで行っていききたいが、生徒にとって有益な時間となるよう各科、学年会と連携して実施していきたい。	
	資格取得に向けた支援	資格取得に向けた授業や補習等を推進する。	資格試験によく取り組んだ、と答えた生徒の割合。	C 65.8%	資格や検定は、職業に直結するものもあれば、直接進路に関係しないけれども、学習の深化や達成感、成就感につながるものもある。授業と資格・検定、進路とを関連させ、資格取得や検定が各教科の学習意欲の向上につながるような授業や補習を推進したい。		
進路の実現に努力する生徒の育成	進路指導	主体的な進路選択能力の育成	キャリア教育を充実させるため、生徒の進路に関する調査・検査の結果及び進路テストの利用方法を提案する	①4月に行う進路テスト結果の研修会を実施し、学力及び学習力を向上させる。 ②進路希望調査の内容を進路指導に生かす。	C 75.0%	今年度新たな取り組みとして、進路テストを3年(4月)は1回、2年は2回(4月・9月)実施した。1回目の進路テストのデータを生かすために教員研修を行い、2回目の進路テストに活かせるように工夫し、一部の生徒には反映させることができたので、1年で終らせず継続したい。また、保護者面談の資料として活用することもできた。そして、年間3回の進路希望調査を実施し、具体的な希望が出てくれば、企業及び進学先訪問計画を立てて、必要な情報をいち早く生徒に届け、目標に向かって努力させる。	B ○県内就職者が増加していることは評価できる。 ○県内企業理解と県内求人開拓について引き続き取り組んで欲しい。 ○定期的な情報発信(進路だより)などは評価できる。 ○卒業生の保護者として、先生方の、将来を見越した進路指導に感謝している。業界情報や進路情報をタイムリーにキャッチし生徒の指導に生かすという指導を今後も続けて欲しい。
		進路先の確保と進路情報の提供	進路だよりの毎月の発行と生徒会進路委員会を活用し、進路情報を提供する。	①進路だよりの発行回数と進路相談の充実。 ②進路委員の中高新聞の活用と進路情報を提供する。	B 89.0%	定期的に進路だよりを発行することができ、生徒及び保護者への情報提供することができた。特に県内企業就職に力を入れて、企業が求める人材と生徒がしてみたい仕事がマッチするように働きかけることができた。この方針を今後も継続して、地元へ人材を送り、活性化することが必要である。今年の新たな取り組みとして、中高生新聞を購読して、各教室において、日本経済新聞と合わせて、社会に関心を持たせ、社会科の授業にも反映させることができた。	
心身の健康保持に努力する生徒の育成	総務	安全教育の推進と防災意識の高揚	火災や地震など実際に即した避難訓練を実施する。	実際に即した訓練だったと答えた生徒・教職員の割合	A 91.6%	実際に即した避難訓練の実施により、防災意識は年々高くなっている。避難訓練時の態度もよく、真剣に取り組んでいる。課題としては、設備・施設が整っていないところがあり、安全面が心配である。農場への放送設備がないことや、教室棟への放送設備も十分ではない。また、教室棟3階の手洗い場が未設置のため、感染力の強いインフルエンザなどが流行した際には、心配がある。また、生徒の机やイスなども傷んだものが多くなり、交換の必要がある。対策としては、教室棟の手洗い場や放送設備の改修などをお願いしていきたい。また、農場の放送設備の設置もお願いしたい。避難訓練は、引き続き、実際に即したものを提案していきたい。	B ○成績もさることながら部活動に取り組む姿勢も大切に指導していただきたい。 ○一年生の部活動加入率が低いことが心配。部活動に対する考えかたが変わったのだろうか。部活動に対する考え方の傾向が分かれば、それを中学校や小学校へ発信することも大切ではないか。
	生徒指導	生徒の部活動への加入を推進する	新入生対象に部活動のオリエンテーションを実施する。 定期的に加入状況を把握し、部活動への加入を呼びかける。	全学年の部活動に加入している生徒の割合	C 88.3%	年度途中で入部する生徒もいたが、各担任・学年部との密接な連携が図られずに未加入や退部した生徒への声掛けや支援が足りなかった。生徒の加入への意識を高める工夫を考えていきたい。	
	保健相談	健康教育の推進	外部専門機関との連携、講習会の実施、健康情報の発信	生徒の実態に即した講演会が実施され、適宜健康情報が発信され、役立ったと答えた生徒・職員の割合	A 89.7%	生徒の実態に即する形で、例年通りの健康教育講演会を実施することができた。保健通信等の発行により、時宜にあった健康情報が発信できた。来年度も同様な実施が望まれる。	
家庭地域中学校との連携	総務	広報活動の充実	校内の状況や学校行事への案内等を中心に、メール配信や学校通信の発行やホームページの更新を積極的に推進する。	メール配信や学校通信の発行やホームページの更新が充分に行われたと答えた保護者・教職員の割合	A 90.8%	学校通信やメール配信、ホームページなど、いろいろな方面から情報提供できた。学校の様子を保護者が知る機会が増えた。課題としては、学校通信をもって帰らない生徒や、メール配信システムに加入しない保護者、ホームページを見ない保護者などへの対応である。また、情報メディア多様化のため、総務部の負担は増えている。来年度の方針としては、ホームページを見てもらうためにどのようにしたらよいか検討していきたい。行事の写真撮影、記事、ホームページへのアップなど各分掌や各科、各部活動などでも分担して対応してほしい。学校通信を総務で作成することも見直す必要がある。	B ○リニューアルした学校ホームページは見やすくなったと思う。引き続き更新をしていただきたい。ホームページを見た方の意見を聴取する欄を新設してはいいかがか。 ○学校からのメール配信は保護者として学校の状況を知る良い機会となっている。 ○農業後継者の育成は地域の課題。翔陽高校が貢献できると良い。農業は魅力的な産業。例えば農場設備の開放なども考えられる。チャレンジジョブ派遣はすばらしい取組み。継続を希望する。 ○寮の食事についての評価が低いままであるのが残念。農場でとれる食材を生かした献立や料理など工夫の余地があると思う。いろいろと難しい問題もあると思うが改善して欲しい。
	教務	生徒募集の推進	中高連絡会、進路説明会、1日体験入学の充実	入学して実際にやってみて、関心が強くなったと答えた中学生の割合。	B 86.6%	体験入学で学科の特徴的な実習を体験することは、中学生が本校の学科を知るうえで大変貴重な機会である。本校を第一希望としていない中学生や、2回とも同じ体験をする中学生もいるが、年2回の体験入学は継続して実施していきたい。	
	農場	魅力ある農業教育の推進	地域連携・貢献事業、校内連携活動の推進	実施回数25回	A 27回	課題研究活動で、地域と連携した取り組みが充実してきたので、今後の継続と改善を進めていきたい。	
後継者育成事業の充実			後継者育成の充実	B 83.2%	事業の実施により、後継者の大幅な増加は厳しい状況であるので、継続が重要である。		
		基本的生活習慣の確立と学習の意識の定着	各種行事での参加及び実習に対する意識変化	B 76.8%	各種事業や実習等で、事前・事後の指導を改善することで、生活習慣のさらなる向上と基礎学力の向上をするように努力していきたい。		